
遊戯王 ソリスト

sasami

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

遊戯王 ソリスト

【Nコード】

N7172Y

【作者名】

sasami

【あらすじ】

遊戯王カオスの2年3ヶ月前、1人の男が教官になる依頼を受けた。
その男の名は、朧。孤独を好み、絆を嫌う男。その男に待ち受ける運命とは？（オリカ多数）

過去の出来事

とある建物の一室

「……………1000万でどうだ？」

ソファに座っているアタッシュケースを持ったスーツの男が、反対側に座っている男に札束の山を差し出す。

「……………安過ぎだ。」

「なら幾らなら引き受けるのだ!？」

スーツの男が憤慨すると、反対側に座っている男が脚を机に叩きつけた。

「1億だ。集団行動はそれ以下では受けん。」

「……………わかった。それで受けてくれるのなら、差し出そう……………」

「交渉成立だな……………」

男はアタッシュケースごと金を受け取る。

「依頼は明後日から受けてやる。とつとと帰れ。」

スーツの男は後ろのドアから部屋を出ていった。

「今回は結構稼げたな……………。暫くは楽できるな。」

男はソファに背を掛け天井を見上げる。

そして、再びドアが開かれる。

「なんだ？依頼料は変更しないぞ？」

ドアの方を見ると、先ほどの男とは違う人物がいた。

「誰だ？」

「ど〜も〜、私一応神様やってるサロツゴって言います。今回は君に用があつて来」

バタンツ

男はすぐにドアを閉めた。

「さて、稼いできた金の総額でも数えるか。」

バンツ！！

「ちよつとなんでいきなりドア閉めるの!？」

さっきのサロツゴとか名乗った人物が勢いよく扉を開け、涙目で訴えてきた。

「仕事の邪魔だ、とつとと失せる。」

「なら仕事として頼むよ。」

「……………どういう仕事だ。」

男は眼の色を変えて聞く態勢に入る。

「え〜と、とりあえず君には2年後、正確には2年と3ヶ月後にあ
る人物を助けてほしいんだ。」

「依頼料は100億だ。」

「高っ!!!?さっきの人は1億だったじゃん!!!?」

「何処の誰とも知らん馬の骨に、俺のこれから決められて堪るか。
それ位の金を持つてくれば、引き受けてやったっていいがな。」

「……………神様でも、財政難っていうものはあるんだよ?」

「ならとつとと出ていけ。」

男はサロツゴの襟を掴んで引きずりだした。

「……………仕方ない、この手は使いたくなかったけど……………」

サロツゴが手を叩くと、男の下に魔法陣の様な物が現れた。

「……………これは。」

「その中にいる限り、君は動くことができない。解除してほしかっ
たら大人しく私の言うことを……………」

「…………… かつたりい。」

次の瞬間、男の下にあった魔法陣が砕け散った。

「うそ!?!」

「確かお前、一応神様とか言ってたな。」

「え、あ、はい。」

「なら無駄なことだ。俺にはそういったものは効かん。」

「え〜!?!」

「だからとつとと帰れ。」

男はサロツゴを外に摘まみだし、ドアを閉めた。

「…………… ころなったら、実力行使!」

サロツゴはドアに向かって突っ込む。

ガチャッ

「え?」

丁度よくドアが開き、出迎えた物は、男の殴りかかってくる拳だった。

「あああああああ………」

サロツゴは勢いよく空に飛ばされていった。

「やっと静かになったか……………」。

男はソファに寝そべり、そのまま眠りについた。

そして2日後…………、

男は、依頼を受け、ある国の軍事基地の教官となった。

「今回、依頼を受けて教官の位置に付く、おぼろ朧だ。今日から殺す気で扱っていくから、遺書を書いとけ。」

「…………ええ!?!…………」

隊員は全員驚いた。

「…………どういふことだよ!?!新しい教官って、まだ子供じゃないか!?!…………」

「俺が知るかよ!?!」

「そこ、聞こえてるぞ。」

隊員達が瑩について話していると、

「上司が呼んだ新しい教官っていうから少しは期待したが、まだガキじゃねえか!」

一際体の大きい奴が前に出てきた。

「文句があるならかかってこい。」

「へッ、なら遠慮なく行かせてもらっぜ!!!」

巨体の隊員が瑩に襲いかかった。

瑩は一瞬で隊員の後ろに回り込み、蹴りを入れた。

「ブツ!!!」

隊員は壁にめり込んだ。

「これで文句のある奴はいないな?」

「」「」「はい!!!」「」「」

他の隊員全員が瑩に対して敬礼した。

その時、基地全体に警報が鳴った。

『侵入者発見、侵入者発見、ただちに排除せよ。』

「こんな時に侵入者だ？一体誰だ？」

基地の入り口、そこには1つのDホイールが置いてあり、

1人の男が基地の中に入ってきた。

「……………ここに、あの情報が…。」

その男の名は、紫藤紫苑。

激闘（前書き）

デュエルは次回からになります。

激闘

軍事基地に侵入した紫苑は兵隊に囲まれた。

「動くな！抵抗しても無駄だ！ただちに両手をあげて降伏しろ！」

隊員の一人が紫苑に銃を向け忠告する。

「……俺は、ある情報を知りたいだけだ。」

紫苑は忠告を無視して歩き出す。

この時の紫苑は、混沌邪宗の情報を探し回り、この基地にあるという噂を聞き訪れた。

実際、そのような情報はなかったのだが、この時の紫苑はこのことを知らない。

「……………撃てええ！！！」

兵隊が一斉に紫苑に向け発砲した。

紫苑は全ての銃弾を片手で受け止めた。

「なんだと！！？」

「怯むな！撃ち続けろ！！」

兵隊達は続けて撃ち続ける。

「……仕方ない。」

紫苑は全ての弾丸を両手で受け止め、飛んでくる弾丸に向けて寸分狂わず命中させる。

「こいつ化物か!？」

「くそっ、弾切れだ!!」

銃弾が切れた隙に、紫苑は隊員達の懐に入り込み、全員を気絶させていく。

「かつ………はっ………」

隊員達は次々と倒れていく。

紫苑はその光景を基地の屋上から見ていた。

「………相手は一人か。流石に1億で引き受けた仕事を1日で潰されるのは困る………」

紫苑は屋上から飛び降りた。

紫苑は上空から来た紫に気付き、身構える。

紫が無事に着地すると、周りに砂埃が舞った。

「……………」

紫苑は構えを解かない。

対する瑩も構えを取ったまま動こうとしない。

沈黙が続く中、紫苑の口が開いた。

「…………お前、歳は幾つだ？」

「なんでそんな事を聞く？」

「…………答える。」

「13だ。」

「…………そうか。」

紫苑は構えを解いた。

「……………何のつもりだ？」

瑩もまた構えを解く。

「…………弟と同じ年の奴と戦う気はない。…………そこを退け。」

紫苑が瑩に話を持ちかけた。

「残念だが、大金の掛かっている仕事を1日で潰されるわけにはいかないからな。」

「……………そうか。」

紫苑と瑩は互いに踏み出し、ぶつかり合う。

二人がぶつかった瞬間、衝撃波が周りの兵隊達を吹き飛ばした。

「……うわあああああ！……！」

お互いに殴り合いが続き、お互い絶妙のタイミングで回避している。

しかしこの時点で、兵隊達の眼には何が起きているのか理解ができなかった。

「………なんだよあの二人、手も足も見えねえぞ？」

「化物だ………。」

その後も1時間に及び二人の殴り合いが続いた。

しかしその戦いも突然終わりを告げる。

互いに攻撃をガードし、攻撃の勢いで後方に後ずさる。

「………なかなかやるな。」

「………お前もな。」

「だが、まだ本気を出してないんだろ？」

「………気づいていたか。」

紫苑は再び振る態勢に入る。

瑩は、今度は伏せて回避した。

再び斬撃が基地に衝突し、基地が崩れる。

「崩れるぞ！！全員、外に逃げろー！！！」

「薙刀は近距離だと不利になると思っていたが、認識を改めよう。」

「……次だ。」

紫苑は一瞬で間合いを詰め、連続で突きを繰り出した。

「流石にこれはきついな……、なら。」

瑩は紫苑と距離を取り、近くに落ちていた銃を拾い、紫苑に向けて発砲した。

紫苑は薙刀を回し、銃弾を弾く。

瑩は紫苑の薙刀に蹴りを入れ、薙刀を折ろうとした。

しかし、紫苑は薙刀を引っ込め、瑩の足を掴んだ。

「な!?!」

「……俺の勝ちだ。」

紫苑は焔を宙に投げ、一瞬で薙刀をたたみ、高く飛んだ。

「……………はっ！！！」

紫苑の蹴りが、焔の腹に命中する。

「がはっ……………！！！」

焔は更に空高く飛ばされ、紫苑は地面に着地した。

そして紫苑は焔を受け止める態勢に入り、落ちてきた焔を受け止めた。

「……………俺の負け、か。」

「……………ああ。」

紫苑は焔を地面に下ろすと、Dホイールへと戻り、去っていった。

数日後、あの基地は完全に倒壊し、依頼の件も無しになった。

「結局金は返すことになるし、ついてねえな……。」

瑩はせっかくの大金を手に入れ損ない、頂垂れていた。

先払いとして受け取った金を返すあたり、意外と優しかったりもするのかもしれない。

瑩が上の空になっていた時、ドアを叩く音がした。

「失礼します。」

入ってきたのは、見た限り40過ぎた男だった。

「なんか依頼か？」

「ええ、人攫いの集団を退治してほしいのですが……。」

瑩は不審な物を見る目をしていた。

「……………今どき人攫いなんてものがあるんだな…。」

「ええ、そいつらは私の娘も連れ去っていきました……………。どうか、どうか娘を助けて下さい!!」

瑩は軽く溜息を吐いた後、依頼料を聞いた。

「ちなみに依頼料は？」

「……………100万では駄目でしょうか？」

「その程度の依頼ならそれでいい。明日には終わらせておいてやるから、それまでに金を持ってこいよ?」

「あ、ありがとうございます!!」

男は早々に部屋を立ち去った。

「さて、それじゃ行くか…。」

瑩は部屋を出て、依頼を遂行しに向かう。

この依頼の後、彼の運命を変える出会いがあることを知らずに……………。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n7172y/>

遊戯王 ソリスト

2011年11月22日02時00分発行